

## [医学系研究科看護学専攻]

### 1. 教育の理念、目標

---

看護学専攻では、近年の医療への社会的要請が多様化するなかで、専門性が高く質のよいサービスを提供するために、高い倫理観や科学的思考力を育てるとともに、学際的視野を広げ、看護学と看護実践場面での課題を自発的に・具体的に研究し、質の高い看護の実践能力を有する看護専門職業人を育成することを目的としている。

教育目標としては、次の4項目を掲げている。

- 1) 看護学教育及び実践看護学に関する問題を研究課題とし、看護研究を継続していける基礎的研究能力をもった人材を育成する。
- 2) あらゆる人々の健康と福祉の充実を目指した実践科学としての看護学を探究し、高度な看護実践能力を有する人材を育成する。
- 3) 看護学における理論と応用を教育・研究し、看護学分野における教育者として活躍できる人材を育成する。
- 4) 看護専門職としてリーダー的役割を担い、保健医療福祉の変化に対し変革的に行動する指導者となりうる人材を育成する。

### 2. 看護学専攻の構成

---

看護学専攻の教育理念のもとに、看護学専攻には「看護学教育」と「実践看護学」の2領域を設け、看護学教育領域には看護学教育分野を、実践看護学領域には母性・小児看護学分野、成人急性期看護学分野、地域看護学分野の3分野を設けている。

#### (1) 看護学教育領域

看護学教育領域では、質の高い看護実践者が求められている中で、看護専門職の育成における教育理論と方法を探求し、高度な教育実践能力を育成するために必要な知識、技術、態度の探求を中心とした教育・研究を行う。

本領域では看護学教育分野を置き、望ましい看護基礎教育、看護技術教育及び継続教育のあり方を探求する。

#### (2) 実践看護学領域

実践看護学領域では、生殖医療や高次救命治療の高度先進医療が進む中で、患者主体の医療・看護とは何かを考察しながら、エビデンスに基づいた質の高い看護援助論について探求する。また、地域の人々に対する保健活動や在宅療養者とその家族を対象とした、広領域な看護分野における看護援助論について探求する。

本領域では、母性・小児看護学分野、成人急性期看護学分野、地域看護学分野の3分野を置き、様々な環境にある患者やその家族に対する看護援助、地域や職場の人々のヘルスケア等について探求する。

### 3. 学生定員と入学状況

看護学専攻の入学定員、収容定員及び過去2年間の入学状況は、次表のとおりであり、定員は充足されている。

看護学専攻の入学定員と収容定員

研究科	専攻	課程	入学定員	収容定員
医学系研究科	看護学専攻	修士課程	8	16

看護学専攻の入学状況

年度	平成17年度	平成18年度
入学定員	8	8
志願者数	14	13
受験者数	14	13
合格者数	10	9
入学者数	10	18年4月確定

### 4. カリキュラムの編成方針

看護学専攻（修士課程）の教育課程は、生涯を通じ専門職業人として看護学への追究心や創造性、応用性を重視した看護活動ができるように、臨地実践能力をもった看護職及び基礎的研究能力をもった看護職、看護教育能力をもった看護職を育成することを目指して編成されている。

授業科目は、共通科目と専門科目から成り、学生が主体的に看護活動の実践・教育に必要な基礎的能力を体得していくために必要な科目が修得できるように科目設定を行っている。

共通科目は、看護専門領域研究の基礎となる科目として、看護学研究方法論、看護理論の2科目を必修として設定し、さらに看護学の基本となる科目として医療・福祉の経済論、看護情報学、生命倫理学など11科目を選択として設定している。専門科目は看護学教育、実践看護学の各領域の専門にかかる理論・研究・実践の諸概念に関する科目として特論、特別演習、特別研究を設定している。

また、実践活動に携わっている看護職が、専門職業人として生涯にわたり看護学への追究ができるように、昼夜開講制を実施し、長期履修にも対応できるようにカリキュラム編成を行い、多様な人材育成の目的に対応している。

#### (1) 履修基準

本専攻における授業科目は必修科目及び選択科目としており、修了に必要な単位数は、30単位以上となっている。

また、共通科目、専門科目の最低履修単位数は次表のように規定されている。

看護学専攻修士課程

科目区分	最低履修単位数	備 考
共通科目	12 単位	必修 2 科目 4 単位, 選択 4 科目 8 単位以上
専門科目	18 単位	専攻分野から必修科目 12 単位を含め 14 単位以上
計	30 単位	

(2) 教育研究分野, 指導教員

看護学専攻における各領域別の教育研究分野, 指導教員, 主な研究内容は次表のとおりである。

研究指導教員及び研究内容

○ 看護学教育領域

分 野	指 導 教 員	研 究 内 容
看護学教育	箕浦とき子	1. 看護職員の継続教育に関する研究
		2. 看護教員の学習ニーズとプログラムの開発
看護学教育	大津廣子	1. 看護技術の教育方法, 評価に関する研究
		2. 看護サービスの質と人材育成に関する研究
		3. 看護サービスの需要・供給分析
		4. 看護労働とキャリアに関する研究
看護学教育	滝内隆子	1. 看護職の継続教育に関する歴史的研究
		2. 在宅における感染管理に関する教育プログラムの開発
看護学教育	村中陽子	1. 教育の個別化に対応するための教育方法や教材の開発
		2. V. ヘンダーソン看護理論の実践的検証
		3. 看護の知識と実践との関連性 (EBN) に関する研究

○ 実践看護学領域

分 野	指 導 教 員	研 究 内 容
母性・小児看護学	野田洋子	1. 女子学生のヘルスリスク行動とリプロダクティブヘルス
		2. 周産期のメンタルヘルス
		3. ピアカウンセリング
		4. 母性看護領域におけるスピリチュアルケア
母性・小児看護学	松宮良子	1. 女性の健康観と保健行動に関する研究
		2. 助産 (母性看護) 技術の効果的な教育方法の検討
成人急性期看護学	竹内登美子	1. 術後せん妄ケア
		2. クリティカルケア
		3. 手術を受ける患者・家族への看護
		4. 外来通院治療を継続する術後患者への看護
		5. 急性期看護用電子教材の開発と評価
地域看護学	後閑容子	1. 行政の変革に伴う保健師の役割と機能に関する研究
		2. 保健師教育のあり方, 教育の現状と課題
		3. 家庭訪問におけるリスクマネジメント
		4. 自記式質問紙調査による健康自己評価を用いた研究 (高齢者, 地域住民, 青年等)
		5. 児童虐待予防に関するネットワークづくり

○ 実践看護学領域

分野	指導教員	研究内容
地域看護学	牧野茂徳	1. 職域における健康管理に関する研究
		1) 作業関連疾患（過重労働による健康障害等）の予防対策
		2) 化学物質による健康障害予防対策
		3) 化学物質以外の職業性疾病の予防対策
地域看護学	細野容子	1. 高次脳機能障害と看護
		2. 後遺症（高次脳機能障害・リンパ浮腫）とセルフケアとQOLの関係性の解明
		3. がん治療後後遺症と患者会との関係－分析とモデルの構築－

## 5. 教育活動

### (1) 教育活動の実施内容と方法

看護学専攻では、実践科学としての看護学を探究する高い能力とともに、全人的医療を担い得る豊かな感性と人間性を備えた高度な臨地実践能力をもった看護職及び、看護教育能力をもった看護職を育成することを目指して次のような教育活動を行っている。

- ① 看護学教育領域においては、看護専門職の育成における教育理論と方法を探究し、高度な教育実践能力を育成するために必要な知識、技術、態度の探求を中心とした教育・研究を行い、望ましい看護基礎教育、看護技術教育及び継続教育のあり方を探求している。
- ② 実践看護学領域においては、患者主体の医療・看護とは何かを考察しながら、エビデンスに基づいた質の高い看護援助論について探求している。また、地域の人々に対する保健活動や在宅療養者とその家族を対象とした、広領域な看護分野における看護援助論について探求し、様々な環境にある患者やその家族に対する看護援助、地域や職場の人々のヘルスケア等について探求している。
- ③ 教育方法は、各看護学分野の内容を深め、幅広い知識を修得させるために、専任教員及び非常勤講師によるオムニバス形式を多く採用し講義を実施している。また、講義で修得した知識をもとに、応用・展開・評価し得る高度な専門職業人を育成するために、学内及び地域社会、臨床の場で演習を行い、専門技術や態度を教授している。
- ④ 入学後にオリエンテーションを実施し、カリキュラムの概要、履修などの諸手続、学生生活、学生保険、健康診断、各種相談窓口、図書館等について説明し、学習への動機づけを図り、履修指導を行っている。併せて各専門領域の教員紹介を行い研究内容について説明している。また、特別研究指導は、原則として学生が選択した該当研究分野担当の教授等が行うが、より効果的な研究指導ができるように学生と面接の上、指導教員を決定している。
- ⑤ 大学院学生がより質の高い修士論文を作成するために、「研究構想発表会」として年に2回、研究計画を発表する場を設けている。その後に「看護学専攻修士論文倫理審査小委員会」において

研究倫理の観点から審査を行い、研究計画書の質をより一層高め、研究に取り組めるように助言・指導を行っている。

- ⑥ 社会人学生の修学を可能にするために長期履修学生制度を導入している。希望する者には、長期履修申請書及び長期履修計画書を提出させ、各分野において面接等により長期履修を希望する理由を聞き指導している。その後看護学専攻学務委員会・看護学専攻教授会議の審議を経て、許可している。

現在、長期履修の許可を受けている大学院学生の人数は、次表のとおりである。

長期履修制度の申請者数及び許可者数

	申請者数	許可者数	備考
平成 17 年度入学生	7	7	看護師 2, 助産師 2, 保健師 1, 大学教員 1, 短期大学教員 1

## (2) 学位の授与状況と研究成果

看護学専攻における学位の授与は、本研究科に 2 年以上（標準）在学し、修士論文を作成・提出し、審査に合格した学生に修士（看護学）の学位を授与することになっている。現在、学年進行中であるので、修士の学位を授与した者はいない。

## 6. 学生生活支援

### (1) 奨学金の申請・採択状況

平成 17 年度入学生は、全員が社会人ということもあり、申請者はなかった。

### (2) 授業料免除実施状況

平成 17 年度入学生は、全員が社会人ということもあり、申請者はなかった。

### (3) 学生の保険加入

日本看護学校共済会の看護学校総合補償制度に、各学生が任意で加入している。研究や授業で、賠償責任を負うようなことが考えられる場合は、加入を勧めている。

## 7. 自己評価・課題と展望

看護学専攻全体としては、学年進行中であることより、教育目標の到達度については的確な評価を行う時期ではないが、実践科学としての看護学を探究する高い能力を有する看護専門職業人として、最初の修士学位授与者を送り出せるよう教育・研究指導に努力していく必要がある。

また今後は、社会の変化と国民の要求に対応し、看護学専攻のさらなる発展のためにカリキュラムの見直しを実施していくことが短期的課題としてあげられる。加えて、見直しを実施する際には授業評価を実施し、評価結果をカリキュラムに反映するよう方策について検討していくことも課題である。

各分野の自己評価・課題と展望は次のとおりである。

### (1) 看護学教育領域

#### ① 看護学教育分野

看護学教育分野では、看護専門職の育成における教育理論と方法を探究し、高度な教育実践能力を有し、看護基礎教育や継続教育に貢献できる人材の育成を目標としている。

この分野への応募者の傾向は、継続教育に関心をもつ看護職の応募が多く、看護基礎教育に携わっている看護職の応募が少ない現状である。専門職業人として質の高い実践能力がもとめられている状況の中、看護専門職を育成する看護教員の力量形成は重要な要因であり、この分野への看護職のニーズは高いと思われる。この分野は、研究指導教員も充実しており、看護基礎教育や継続教育なども含めた看護職の教育に関する多様な研究課題にも対応できる。今後は看護教育に携わっている看護職のニーズに対応できるように、シラバスをはじめ、研究・教育内容のさらなる充実にむけて検討し、看護学教育分野を専攻する応募者の確保に努めることが短期的課題である。

### (2) 実践看護学領域

#### ① 母性・小児看護学分野

母性・小児看護学分野では、研究指導教員が母性看護分野に偏っている現状がある。少子化や社会環境の変化に伴い、小児看護学と母性看護学との統合的な研究課題も見込まれることから、小児看護学分野の研究指導員の充実が望まれる。母性・小児看護学分野の研究領域の多様性から、広く他領域の教員も含めた指導体制の検討や、専門領域の充実に努めるなど、大学院学生のニーズに対応できるように努めたい。また、母性・小児看護学分野の修士論文コースだけではなく、助産師教育の質の向上に向けて、大学院での助産師教育の可能性について検討することが長期的な課題である。

#### ② 成人急性期看護学分野

近年における医療の進歩と看護職の役割拡大を考えると、入院患者を対象とした急性期看護や周手術期看護に関する教育・研究のみならず、新しい概念での外来看護や地域連携等々を追求していく必要がある。また、急性期看護における継続教育・生涯教育、キャリア開発等々を含めた教育研究体制を構築していくことなど、多くの課題がある。指導教員数が少ない中で、既述した教育・研究内容の充実をはかるために、他大学の教員との学術交流を促進しながら、内容充実に努めている。

### ③ 地域看護学分野

地域看護学分野においては、公衆衛生看護学、産業保健、在宅看護学、慢性期看護学、精神看護学、老年看護学などを範囲として含んでいるので、看護学の専門分野としては多様な専門分野が包含されている。今まで、看護学専門分野における研究・教育に関してはそれぞれの専門分野で行われてきているが、今後、地域看護学分野のこのような多様な専門性を活かした横断的、包括的な研究・教育を実施できるように検討し、社会貢献することが必要である。

大学院学生が地域看護学分野に希望する研究・教育への要望も多様な専門分野にわたるものである。今後、公衆衛生看護学、在宅看護や継続看護、病院や施設などの臨床看護など、各専門性を生かした研究・教育を追究し、大学院教育を更に充実させることが求められる。